

我を生むものは父母、我を知るものは恩師なり

今から、少し長い漢文を紹介します。

白文(原文)

書き下し文

齊姜姓、太公望呂尚之所封也。
後世至桓公、霸諸侯。
五霸桓公為始。

齊は姜姓、太公望呂尚の封ぜられし所なり。
後世桓公に至り、諸侯に霸たり。
五霸は桓公を始めと為す。

名小白。
兄襄公無道。
群弟恐禍及。
子糾奔魯。
管仲傳之。
小白奔莒。
鮑叔傳之。

名は小白。
兄襄公、無道なり。
群弟禍の及ばんことを恐る。
子糾魯に奔る。
管仲之に傳たり。
小白、莒に奔る。
鮑叔之に傳たり。

襄公為弟無知所弑、無知亦為人所殺。
齊人召小白於莒。
而魯亦發兵送糾。
管仲嘗遮莒道射小白。
中帶鉤。

襄公、弟無知の弑(しい)する所と為り、無
知も亦人の殺す所と為る。齊人、小白を莒よ
り召く。而(しこう)して魯も亦兵を發して
糾を送る。管仲嘗て莒の道を遮り、小白を射
る。帶鉤に中る。

小白先至齊而立。
鮑叔牙薦管仲為政。
公置怨而用之。

小白、先づ齊に至りて立つ。
鮑叔牙、管仲を薦めて政を為さしむ。
公怨みを置きて之を用う。

仲字夷吾。
嘗与鮑叔賈。
分利多自与。
鮑叔不以為貪。
知仲貪也。
嘗謀事窮困。
鮑叔不以為愚。
知時有利不利也。
嘗三戰三走。
鮑叔不以為怯。
知仲有老母也。

仲、字(あざな)は夷吾(いご)。
嘗て鮑叔と賈(あきな)ふ。
利を分かつに多く自ら与ふ。
鮑叔以つて貪(たん)と為さず。
仲の貧なるを知ればなり。
嘗て事を謀りて窮困す。
鮑叔以つて愚と為さず。
時に利と不利と有るを知ればなり。
嘗て三たび戦ひて三たび走る。
鮑叔以つて怯(けふ)と為さず。
仲に老母有るを知ればなり。

仲曰、生我者父母、知我者鮑子也。
桓公九合諸侯、一匡天下、皆仲之謀。
一則仲父、二則仲父。

仲曰はく、
「我を生む者は父母、我を知る者は鮑子なり」
と。

口語訳（現代語訳）

齊は、姜を姓名とする国で、太公望呂尚が封ぜられた国です。その後、（君主が）桓公となって、諸侯の覇者となりました。（春秋時代の）五人の覇者は、桓公を始めとします。

（桓公は、）名前を小白と言いました。

（桓公の）兄は襄公といい、道徳にはずれた行いをする者でした。（そのため、桓公をふくめた襄公の）弟たちは、災難が（自分の）身にふりかかることを恐れました。（そのうち）子糾は、魯に逃げました。管仲がその補佐役を務めました。一方で小白は、莒へ逃げました。鮑叔がその補佐役を務めました。

（そのうち）襄公は、弟の無知に殺され、無知もまた、人に殺されました。そこで齊の人々は、小白を莒から呼び戻し（て、後を継がせようとし）ました。ところが魯もまた、（自分の国に逃げている糾を齊の君主にしようという思惑で）兵を伴って、糾を（齊へと）送りこみました。管仲は莒からの道で待ち構えて、小白に矢を射ました。矢は（小白の）帯金に当たりました。

（最終的に、）小白が、先に齊に着き即位しました。

鮑叔牙は、管仲を推薦して政治をまかせようとししました。小白（桓公）は、（管仲が自分を殺そうとした）恨みは置いておいて、これを用いたのです。

管仲は字を夷吾と言いました。

かつて鮑叔と一緒に商いをしたことがありました。管仲は利益を分けるときに、自分に多く分けました。（しかし）鮑叔は、（管仲のことを）貪欲だとは思いませんでした。管仲が貧乏だと知っていたからです。

（またかつて管仲は、鮑叔のために）事を企てたのですが、（失敗して鮑叔が）困窮してしまっただけではありませんでした。（しかし）鮑叔は、（管仲のことを）無能だとは思いませんでした。物事が有利に働くときもあれば不利に働くときもあることを知っていたからです。

（またかつて管仲は、）三回戦って、三回とも敗れて敗走したことがありました。（しかし）鮑叔は、（管仲のことを）臆病者だとは思いませんでした。管仲には年老いた母がいることを知っていたからです。

管仲は言います、

「私を生んだのは父と母ですが、私のことを理解してくれているのは鮑叔です。」

と。

私の場合、高校生活に行き詰りながらもなんとか自分を表現できる手立てを見出すことができたのは、当時の担任である大田和先生のおかげでありました。

先生は、私のことを必ず「阿部君」とおっしゃりました。教員として机を並べたときには、「阿部先生」とおっしゃりました。校長で帰ると、「校長さん」といっていただきました。頭が上がりません。

まさに、我を知っていただきました。何とか、最後の年を迎え、先生の教えを胸にいただきながら毎日を過ごしております。